

ファンにやさしい 馬講座

第 2 回

やる気か、
イレ込みか：
「気合」とは何なのか？



今月の講師

楠瀬良さん
(JRA競走馬総合研究所)



案内人：辻谷秋人
text by Akihito Tsujiya

「気合」に見えるものは、
実は緊張感だった！

前回、私たちは馬を見るときに、馬を擬人化しすぎ、自分たち人間の感覚で考えすぎて、結果勘違いを犯しているのではないかと、ということを書いた。今回もこのあたりの話を、具体的な例を取り上げて、もう少し掘り下げてみたい。

パドックを周回する馬たちを見て、「おお、あの馬はだんだん気合が乗ってきたな」と、私たちはよく考える。一方「あれは気合乗りというよりはイレ込みだな」という見方もあって、気合乗りとイレ込みをどこで見分けるかというのは、よく問題にされることだ。

ここではそれに対する答えを出すよりもっと前段階のこととして、「そもそも気合とは何か」を考えてみたい。お話

を聞かせてくれるのは、前回に引き続きJRA競走馬総合研究所の楠瀬良さんだ。「犬ぞりのレースに出場する犬たちは、レースの前になると、たいへんに興奮するといえます。彼らは走ることが楽しみで、早くレースをしたがっているんですね」

ところが、馬の場合、ちよつと事情は違うのだという。「前にもお話ししたように、馬にとって走ることは基本的に「恐怖」であり、危険から逃れる手段です。狼の子孫で肉食動物である犬とは決定的に違うわけです。さらにレースは肉体的にもたいへんなストレスになる。競走馬がレースの前に落ち着きをなくすのは、気合というよりむしろ緊張感に近いのです」

競馬場に運ばれた馬たちは、自分からパドックに出れば、その時間が近づいて

いることもわかる。あまり嬉しくない仕事の時間が近づいているという緊張感だということだ。

緊張が引き起こす
競走馬の問題行動

レースを前にした馬たちが緊張している様子は、実は私たちはよく目にしていくことでもある。ポロがそうだ。

パドック周回中にポロをする馬は、なんだかのんびりしたふうに見える。緊張感が感じられず、「ポロなんかしてる場合じゃないだろう」と思ってしまうのだが、

「ポロをするのは緊張している証拠です。これは馬に限ったことではなくて、一般に脱糞は緊張の現れです」

ということだ。緊張の発現がポロくらいであればまだ



JRA

多くのファンが集まり、馬たちの動きに目を凝らすパドック。そこでは馬の緊張もかなり高まっている

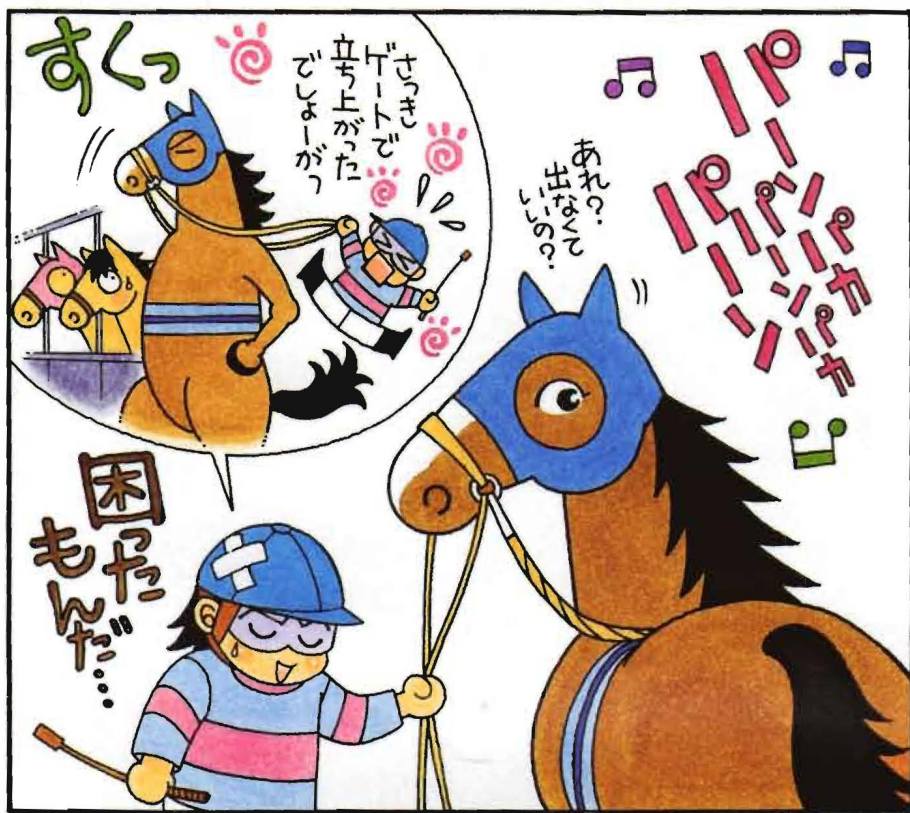


Illustration by Junko Agi

かわいいが、馬によっては馬場入場のときに膠着してしまったり、スターティングゲートの中で駐立してしまったりということがある。こちらはちよつと問題で、場合によっては発走除外といった措置が取られることも考えられる。競走の進行

や公正確保を考えると、致し方ないことだ。「ただ、困ってしまうのは、競走除外は馬にとって報酬になるということなんですよ。レースに出なくてすむ、苦しいことをしなくてすんだというのは、馬にとつ

てはご褒美なんです。ゲートで立ち上がれば走らなくてすむ、と馬は考えるようになる。問題行動によってご褒美がもらえてしまうわけで、次も同じことを繰り返すようになってしまいます」

競走馬だけではない。ある大学の馬術部にいる乗馬は、馬場に出すと跛行するのだという。もちろん脚の機能的にはまったく問題がないのだが、跛行して見せれば障害を飛んだりしなくてすむことを覚えてしまったのである。

このあたりのことは、犬を飼っている人には心当たりがあるのではないか。犬が悪いことをしたときの人の反応が、犬にとって嬉しいものにならないようにするのは躾の基本だ。

粗相をしたときに駆け寄って叱ってはいけない。犬は「声をかけて、走ってきでくれた。遊びに来てくれた。嬉しい」と感じてしまう。逆効果、というわけだ。

落ち着きと着順の 相関関係

では、競馬ファンとして気になるところ、この緊張感と競走成績の関係を尋ねてみよう。

競走馬総合研究所では、レースの前に落ち着いている馬とそうでない馬を比較する調査を行ったことがある。

落ち着いていたかどうかの判定は、鞍所での行動、例えば馬体重を計るときに体重計にすつと乗ったか、あるいは何歩か動いたか、といった要素で切り分け

てスコア化して行った。

「この調査では落ち着いている馬は落ち着きのない馬に比べて、平均的に見れば先着する傾向があることがわかりました。また、こうした傾向はすべての競馬場、すべての年齢のレースで共通していました」

とくにこの傾向が顕著だったのは、2歳馬のレースだった。年齢が上がり、出走回数が増えれば馬に落ち着きが出てくることもあり、若い馬のレースほど両者の差は大きい。札幌競馬場の2歳馬のレースでは、もつとも落ち着いていたグループは、もつとも落ち着きのなかったグループに比べて平均1・5着、先着しているという結果が出た。

「ただ、そうした傾向があったのは間違いないのですが、相関係数が低く、統計学的な有意性はみとめられませんでした」だから、この結果は馬券購入の役には立たないでしょう、と楠瀬さんは言う。個々のレースにおいて、落ち着きのなかった馬が勝つことは当たり前にあることは、私たちが実際にレースを見て感じているとおりである。

ただ、ひとつの考え方として（あくまでひとつの考え方として）、落ち着きのある方がないよりはよさそうで、しかも経験を積むごとに馬は落ち着きを増すことはわかったから、いつもは落ち着いている馬が妙にチャカついているようなケースは注意すべし、というくらいのこと